

(様式第7号)

おおさかグローバル奨学金留学報告書

平成26年6月15日

| | | | | |
|------|----------------------------|------|-----|----------|
| | | | | |
| 留学期間 | 平成 25年 8月 21日 ~ 29年 5月 26日 | | | |
| 留学先 | 国名 | アメリカ | 学校名 | ウェルズリー大学 |
| 専攻 | 神経科学専攻・教育学副専攻(予定) | | | |

留学中の生活、留学の成果、留学で得たことをどのように活かすか、これから留学する人へのアドバイス等について2000字以上で記入してください。

5月末に春学期が終わり、ウェルズリー大学での1年目を終了することができました。春学期には主に2つの目標がありました。1つ目は興味のある分野の授業を取りながら将来したいことを明確にしていくこと。2つ目はより多くの課外活動に参加して他人との交流を大切に、勉強以外のことにも力を入れていくことでした。学期の初日からの風邪や授業変更などによってスタートが少し遅れてしまい大変でしたが、最終的にはこれらの目標を達成し、満足のできる学期を終わらすことができました。

受けた授業

私が興味のある神経科学の専攻には Cellular and Molecular Neuroscience・Cognitive Neuroscience・Systems and Computational Neuroscience の3つの分野があり、神経科学を専攻にするにはこの3つの分野の中から2つの分野を勉強していく必要があります。どの2つの分野を選ぶかはまだ迷い中なので、春学期には Cognitive Neuroscience の「記憶」と Systems and Computational Neuroscience の「コンピューターサイエンス入門」を受けることを決めました。また、教育学副専攻にも Educational Studies と Teacher Education の2種類があり、今学期はそれぞれの分野の必修科目である「教育と社会政策」と「発達心理学」を受けてみました。このように春学期の授業は神経科学と教育学により関係している授業を取りながらも、その中で幅広い分野の授業を受けることを心掛けてみました。

「記憶」では毎週のテーマに関連した論文をたくさん読み、授業中にそれらの論文について話し合いました。どの論文も完璧に理解するのは難しかったので、読みながら疑問に思うところがたくさんありましたが、それらの疑問は授業中に聞いたり教授のオフィス・アワーズへ行くなどして1つずつ解決していくようにしました。

「コンピューターサイエンス入門」ではウェブサイト作成について学び、一学期かけてウェブサイトを作りました。私は日本で知り合ったインターナショナルスクールの先生からメンバーで暮らす芸術家に紹介してもらい、その方のウェブサイトを作りました。2人1組になってこのウェブサイト作成に取り組んだので、相手とコミュニケーションをうまく取り、課題を

効率良く進めていく力が付いたように感じます。

「発達心理学」では小学時代までの子供の発達を詳しく勉強しました。この授業では子供の発達経過をただ暗記するだけでなく、子供の発達に関わる様々な要因を考えたり、商品として売っているおもちゃが子供の発達にどのような影響を与えているのかを考えたり、大学内にある Wellesley College Child Study Center に行って実際に子供を観察したりしました。

「教育と社会政策」では毎週 200 ページもの文献を読むのが課題で、その上に毎週メール上でクラスメートと公開し合う文献の感想文や教授に提出する論文などもあり、すべての課題をどのようにして終わらしたのかが分からないくらいです。2 時間半ある授業ではディスカッションをし、クラスメートの中から 2・3 人がディスカッションリーダーとして話し合いを進めていきました。同じ週にリーダーをする人で事前にミニ・ディスカッションを行ったりオフィス・アワーズで教授に話すなどしてディスカッションに向けての事前準備も頑張りました。この下準備はとて時間もかかり大変でしたが、教育学について何時間も話し合いをすることができて思う以上に楽しみました。また、私は人前で話すのが苦手ですが、リーダーを何回もしていくうちに、自信を持って人前で話すことができるようになりました。

授業を受けて考えたこと

今回受けた授業の中で 1 番大変だったのがこの「教育と社会政策」の授業でした。この授業で受けた刺激はとて強く、将来何を勉強したいかを考える上で 1 番役に立ちました。この前の報告書では、教育法の効果などを神経の伝達を測定して研究していきたい、と述べましたが、研究テーマに社会的な要素を加え、社会に直接役立たせることができる意味のある研究が今後できたら、と最近思うようになりました。今学期はウェルズリー大学の Department of Education と「教育と社会政策」の教授の支援で Harvard School of Education の Alumnae of Color Conference に行き、ここで社会的な要素が加わった脳科学研究について勉強することができました。アフリカ系アメリカ人は勉強ができない、という偏見が今でもアメリカにあります。ヒップホップを取り入れた授業やアフリカ系アメリカ人の先生が教える授業を行ったところ、アフリカ系アメリカ人の生徒の成績は上がり、脳も普段より活発に働いていたことが研究で判明されました。多種多様な人種が集まるアメリカですべての生徒に合った教育を提供するのは難しいとは思いますが、生徒 1 人 1 人に合った教育を提供する効果が科学的に証明できると、生徒を平等に扱う教育への意識が向上し、新しい教育制度が期待されます。脳科学と教育学を勉強し、教育に直接役立つ脳科学の研究に今後携われたらと思うようになりました。

課外活動

秋学期から参加していた日本クラブと Wellesley for UNICEF の活動に加え、春学期には Chinatown Afterschool Program というクラブにも参加することを決めました。Chinatown Afterschool Program はボストンの中華街に住む低所得家族の子供たちが参加する放課後のプログラムであり、私はここでカウンセラーとして生徒の宿題を手伝いました。週末にはカウンセラーが全員集まり、1 週間の反省や今後の予定などについての話し合いをします。宿題を終わらした後に生徒たちができるアクティビティを企画することも仕事の 1 つでした。私が企画したアクティビティをする日はちょうど日本で雛祭りだったので、日本の文化について少し紹介した後に皆でお雛様やお内裏様を折り紙で折り、カタカナで名前を書かせました。生徒は興

味を持って楽しくアクティビティをしてくれたのが嬉しかったです。

また、今学期からは United States College Alumnae Network in Japan (USCANJ) という日本でのボランティア団体に所属し、USCANJ が取り組んでいる「米国大学生のリアル」というブログの投稿者として活動し始めました。このブログでは現在留学中の学生たちがそれぞれの大学での生活などについて投稿し、日本に住む中高生への情報提供を行っています。私はここでウェルズリー大学の紹介や留学中の体験談について投稿しています。

寮生活

アメリカの大学では夏休みは寮から出されるところが多く、ウェルズリー大学でも学年末には部屋のをすべて片づけ、荷物を地下の倉庫に預ける必要があります。預けられるのは4箱と限られている上、Dorm Move-Out 期間中に期末テストもあったので、いる物といらぬ物を素早く分け、短時間で限られた収納スペースに片付ける必要がありました。これは思う以上に大変でしたが、これも勉強になりました。

一年間の成果

あっという間に1年が過ぎましたが、この1年を振り返ってみると、数えきれない出会いや経験に刺激され、とても成長ができた年になったように感じます。大学が始まる前は不安に感じていたことがたくさんありましたが、授業が始まるとこれらの不安を考える暇もなく、毎日必死で勉強と課外活動に打ち込む日々が続いたように感じます。この1年で読解力や文章力がついたのはもちろんこと、ディスカッション中に意見をしっかり述べる力やグループワークで他の人たちとうまく接する力も付きました。また、私はタイム・マネジメントが特に苦手ですが、忙しい時にも冷静になって、時間を効率良く使うことができるようになってきたと思います。その上、日本では母に任せていた食器洗い・洗濯・掃除・料理・買い物などの用事もしながら、勉強に取り組むことができるようになりました。そして、高校生の時に疎かにしてしまっていた睡眠もできるだけ取るようにし、健康的な大学生活を過ごすことも心掛けました。最後に、クレジットカードの手続きをしたり、一年間の予算を組んだりしているうちに、経済的な力も少し付きました。

今後の目標

この1年間で勉強したいこと・将来やりたいことが固まってきたので、来年は教育学 (Teacher Education) と神経科学 (Cognitive Neuroscience, Molecular and Biological Neuroscience) を勉強していきたいと思っています。ウェルズリー大学はマサチューセッツ工科大学 (MIT) と連携しており、MIT で授業をとって単位にすることが可能なので、MIT の神経科学の授業に挑戦してみたいです。そして、「発達心理学」を教えてもらった教授にゼミで助手として働くお誘いをいただいたので、来年からは教授が行っているリサーチにも携わることになりました。

これから留学する人へのアドバイス

私が留学をする人たちに伝えたいことは、将来したいことや新たに発見した興味をいつも心掛けながら、大学生活を過ごすようにすることです。アメリカの大学では専攻を2年生の終わりに決めるので、入学時に学部などを選ぶ必要はありませんが、このシステムが取り入れられ

ているからこそ、受けてみたい授業を真剣に考え、最終的に選択した授業には熱心に取り組み、自分が本当に何を勉強したいのかを常に考える必要があります。また、多くの学生が長い休みの期間にインターンシップをして将来何をしたいのかを考えて過ごしています。アメリカではこのように自分で道を切り開いて自分ならではの将来を設計していくことができるので、今から留学する人たちにもぜひ興味や将来を心掛けながら留学して欲しいと思います。

この1年間では今までにない成長がたくさん見られ、満足しています。2年目からは、授業と課外活動の他、インターンシップや奨学金への応募が本格的に始まり大変になると思いますが、油断せずにこの調子でベストを尽くしていきたいと思います。

※上記の内容については、公表される場合があることを了承します。